長者中

主体的に学び、自己の生き方を探究する生徒の育成

～進路や将来設計に結び付く「学ぶ意義」を踏まえた授業づくり～

（３年計画の３年次）

校長　蔦　川　　誠

１　研究主題について

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等による社会の急速な変化のもと、今を生きる中学生は、これから厳しい挑戦の時代をたくましく生きることが求められている。本校では、変化の激しい時代を生きるために、キャリア教育の視点を生かし、基礎的・汎用的能力の育成を意識することが重要であると考えた。基礎的・汎用的能力の育成が学習意欲の向上及び学習習慣の定着につながり、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができると考え、本主題を設定した。

本研究を進めるにあたっては、次の２点を重点項目に掲げた。

１点目は、キャリア教育の視点を授業に生かし、「学ぶ意義」を理解させる取組を行うことである。

(1) 教職員・生徒がともに基礎的・汎用的能力の意識を高める工夫。
　「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」
　「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」
(2) 日常と学習内容を結び付けるなど、受検以外の学ぶ意義を意識させる授業展開。
(3) 自己理解をもとに、生徒それぞれの学ぶ意義を考えさせる場の設定。
(4) 学ぶ意義の理解につながる日常的な自己管理とキャリアプランニングの場の設定。

２点目は、生徒の主体性と対話的な学習及び思考力・判断力・表現力の育成を支援するために、特別支援教育の視点を取り入れることである。

(1) 「焦点化」…「何を学ぶか」を明確化する工夫。
(2) 「視覚化」…「どのように学ぶか」を明確化する工夫。
(3) 「共有化」…「何ができるようになるか」を集団として共有する場面の工夫。

これらを意識した授業づくりの推進は、生徒の授業における「学ぶ意義」の喚起と理解につながった。しかし、授業における「学ぶ意義」の喚起と理解が、学習習慣の定着・向上に結び付いているかは不透明だったため、昨年度は、キャリア教育の視点（学ぶ意義）と特別支援教育の視点（焦点化・視覚化・共有化）に基づく授業改善を継続しつつ、生徒が家庭でも学習を頑張ろうと思える授業の工夫に取り組んだが、生徒の変容はあまり見られなかった。そこで、今年度は、昨年度の取組に加え、授業内容と家庭学習の課題との関連を強めることで、学習意欲の向上を図る。

２　研究のねらい

授業を中心とした教育活動にキャリア教育と特別支援教育の視点を取り入れた授業展開を工夫することを、教員が共通理解のもと同一歩調で実践する。それによる生徒一人一人の学習意欲、学習習慣、思考力・判断力・表現力に関する変容を明らかにする。

３　研究仮説

授業を中心とした教育活動にキャリア教育と特別支援教育の視点を取り入れ、自己の生き方を意識した「学ぶ意義」を考えさせ、理解させることにより、生徒一人一人が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を育成することができる。

４　研究内容

(1) 研究協議と発表の機会を設けるために、３人１組のグループによる相互公開授業を実施する。
(2) 授業改善と生徒の変容の状況把握をするために、生徒・教員によるアンケートを実施する。
(3) 学習委員会を活用し、課題を生徒自身のものとして、主体的に解決させる活動を取り入れる。
(4) 日常的な自己管理能力を育成するために、生活記録ノート「私のあゆみ」を活用する。
(5) 基礎的・汎用的能力を育成するために、キャリア・パスポートを活用する。
(6) 外部講師を招いての講演会を実施し、「学ぶ意義」について考えさせる機会をつくる。
(7) 授業内容との関連を深く図った家庭学習の課題について教師間での理解を深める。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授業研究	全体会等
４	５		全体会（研究の方向性の共通理解） 教科・領域部会 全体会（具体的な取組の共通理解）
５	６ ９ ２５	授業研究　授業者：庄内	 全体会（指導案作成に関する伝達講習） 全体会（NRT 分析）
６	 ２４	 授業研究（要請訪問）　授業者：野田頭	教科内指導案検討会（国語科）
７			研修部会（アンケートの集計・分析）
８	１９ ２２		全体会（１学期の成果と課題） 学年部会（QU 考察）
９	２７	授業研究　授業者：小山内	
１０	１７	授業研究（初任研）授業者：大久保	
１１	４ ２８	教育指導課・総合教育センター計画訪問 授業公開　授業者：須藤	教科・領域部会（成果と課題）
１２			研修部会（アンケートの集計・分析）
１	１１ １９ ２３ ２５ ３０	 授業公開　授業者：作山 授業公開　授業者：鈴木 授業公開　授業者：館	学年部会（QU 考察） 全体会（まとめ・次年度に向けて）
２	 １６	授業公開　授業者：三浦留、慶長、立場、佐々木、三浦直、沼岡、蹴揚 授業研究（初任研）　授業者：大久保	

(2) 一般研修

月	日	内容･講師･概要等
５	１９	生徒理解研修
８	２０	「１人１台端末」の活用に関する一般研修 （講師　八戸市総合教育センター主任指導主事　石井一二三氏）
１	１０	消火器の使い方及びアレルギー対応研修

６　研究の成果

(1) 今年度は、初任者にも配慮しながら、できる限り同じ教科で３人１組を作り、キャリア教育と特別支援教育の視点を生かした授業実践についての相互公開授業を実施した。また、視点表を改良したことで、より生徒の変容に着目した授業参観ができるようになった。

(2) アンケートの実施により、教師の授業改善や生徒の変容の状況を把握できた。

(3) 学習委員会の取組により、「学習の約束」に対する意識が高まった。

(4) 外部講師を招いての講演会は生徒にとってよい刺激になった。

７　研究の課題

(1) 早めの計画・実施により効果的な実践研究を進めたいが、行事と日々の業務に追われて教員に余裕がなく、公開授業がどうしても後半に集中してしまう。

(2) 生活記録ノート「私のあゆみ」でタイムマネジメント能力を付けさせる取組を続けているが、教師の意識に温度差があり、指導が徹底されないため、定着しない。来年度も根気強く共通理解を図り、指導を続けていく。また、「私のあゆみ」に掲載した「各教科学習の意義」についても、年度始めに説明しただけでは忘れてしまうため、機会がある度に各教科で話題することを継続する。

(3) 家庭学習習慣は家庭環境とも関連があるため、すぐに身に付くものではないが、授業内容に深く関わる課題を出すことで課題に取り組む必然性をもたせる取組を来年度も継続し、家庭学習習慣の定着につなげたい。

（記入者　立場　里香）